

a 学校教育目標	心豊かに かしく たくましく生きる児童の育成 一認め合い支え合い 深い学びを求めて 最後まで挑戦する児童一	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 【ビジョン】(自校の将来像)	自分を愛し、夢を語る児童の育成 生き生きと活気あふれる学校
----------	---	----------------------	----------------------------------	----------------------------------

評価計画				自己評価					改善方針	学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力 主体的で探究的に学ぶ児童を育成する。	基礎・基本の学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成を図る。	思考力・判断力・表現力の育成 「課題発見・解決学習」の45分の授業構成の工夫 ・自力解決と振り返りまとめて自分の考えを書く。 基礎・基本の学力の定着 ・帯タイムや家庭学習による繰り返し学習の徹底 ・校内実力テスト(学期毎)の取組実施前勉強で目標点と勉強の計画実施後結果による補充学習の実施と授業改善	・自力解決で自分の考えを書くことができる児童の割合。 ・まとめ・振り返りで自分の考えを書くことができる児童の割合。 ・実力テスト(2教科)で60点以下の児童数。	80%以上 90%以上 0人	96%	89%	111%	A	・児童アンケートの結果、自力解決で自分の考えを書けると答えた児童の割合は87%で目標値に達していたが、前回と比べると達成値が下がっていた。自分の考えを頭の中で描くことよりも、具体的に表現するための方法が身に付いていないと捉える。 ・まとめ・振り返りで自分の考えを書くことができると答えた割合は、アンケートでは79%と目標値を下回っているが、前回に比べ10%上昇している。前回特に課題であった「自分の言葉でまとめが書ける」の肯定的評価は25%上昇しており、ワークシートの活用や児童の発言の尊重、めあてに立ち寄り、複数の児童の考えの共通点を探るなど効果的だったと考えられる。「振り返りを書くことができる」の肯定的評価は前回とあまり変化していない。授業の終末で定時へのつながりを持たせたり、日常生活と学習内容を関連付けたりするような単元計画が不可欠だと捉える。 ・実力テストでは、60点未満の児童が国語で18人、算数では10人であり、1学期と比べるとそれぞれ1人ずつ減った。中間報告で課題であった漢字の書き取りについては、漢字大会に向けた学習により正答率は上がったが、国語では全体的に「敬語や活用形類などの言語事項、心情読み取りや文章全体を読み取るなどの読むこと」に課題があった。算数では、数と計算、図形領域に課題があった。	・自力解決の場面では、どんな表現方法でも自分の考えになることを伝え、表現方法を例示するなど、問題に応じた説明の仕方や指導していく。また、「自分の考えを説明する」とし、式や図や表を使って表したり、ブロックを動かしたりしながら説明しようとしている。という質問に対する肯定的評価は72%に下がったため、相手を意識した表現の仕方についての指導も行っていく必要がある。 ・まとめが自分なりの言葉で書けるようになるためには、まず、問題解決過程の中で学習者に「問い」が自然に発生するよう学習課題の設定に留意していく必要がある。「ふりかえり」については、ノートに思考過程だけでなく、その時間自分が何を学び取ったのかを振り返らせる内容的記述表現活動も大切にしていきたい。学習者自身が学びの成長の記録として振り返ることができるよう継続的に取り組む。また、単元の導入時には、児童に学習の枠組みを示すことにより自らが見通しを持って学びを進められるように授業改善を進めていく。 ・実力テストについては、前学習、モジュール等を活用し、課題があった領域を重点的に、類題を解く。その際、60点未満だった児童を中心に、個別指導の充実を図る。	○			・60点以下の児童がいるのは気になる。算数の楽しさを体験するといいたい。 改善策を推進されていて良いと思います。気になる点は、改善方針が盛りだくさんなことで、改善するための手段が目的にならないようなマネージメントが必要かと思えます。 ・広島県の15歳の生徒につけさせたい力として示される「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる」を意識され、日々の取組を進めていただければと思います。その観点から、自分の考えを書く取組は適したものであり、その成果も期待します。 ・実力テストにおいて、6年生の60点以下が9人というのは、素晴らしいです。全教職員で学力向上の取組が進められ、成果が出てきていることの表れだと思います。
豊かな心・健やかな体 心も体もたくましい児童を育成する。	認め合い支え合い、自ら伸びるとともに伸びる児童を育成する。	自分たちで決めた目標の達成に向けて粘り強く取り組むことを通じて、自己有用感や集団の意識を向上させる。 ・気持ちのよいあいさつ ・ありがとうの木 ・めたっこチャレンジ ・生活チェック ・体力づくり	・自己肯定感の割合。 ・体力テストで全国及び県平均値以上達成率。	80%以上 75%以上	87.8%	97%	114.8%	A	・児童の「ありがとうの木」の肯定的評価は93%、「めたっこチャレンジ」の肯定的評価は96%であった。自分にはよいところや得意なことがあると自覚する自己肯定感の割合は97%であり、10月の時よりも9.2%高い数値で目標を達成することができた。あいさつについても、肯定的評価は94%で目標を達成することができた。 ・生活チェックについては、起床時刻の中央値は6:20、就寝時刻の中央値は21:20であり、昨年度よりも早寝早起きが定着できた。また、ゲームやテレビなどのメディアに触れる時間は、1学期当初は中央値が60分であったが、2・3学期には45分と減らした。 ・体力テストについては、全国及び県平均値以上達成率は81.3%で目標を達成できた。「意識調査」については「運動やスポーツをすることが好き」に対するは肯定的解答が82%と高い結果が得られた。	・「ありがとうの木」「めたっこチャレンジ」については、目標を達成できているので、取り組みを継続し自己肯定感を高めていく。また、「ハイパーQ-U」の結果分析を行い、集団作り等の取り組みに生かしていく。 ・「気持ちのよいあいさつ」については、「進んであいさつをしている」児童を評価し、あいさつをすることへの意欲を高めていく。 ・体力テストについては、「握力」「60m走」「ボール投げ」が全校及び県平均値以上の達成率になるよう重点課題として取り組んでいく。体力づくりに関しては、体力の向上・維持を図るため、朝の運動タイムを引き続き行っていく。また、体育の授業改善を行い、年間を通して体力向上を目指した運動を取り入れ行う。	○			・体力は、将来何を行うにしても重要で、ますます体力(持久力)をつけさせてください。 ・地道で成果が客観的に見えなくなりましたが、改善方針に時間を割いて取り組んでいただきました。 ・コロナ禍であっても、工夫して取り組まれており、すばらしい。
信頼される学校 学校と保護者・地域及び関係機関との双方向の信頼関係を構築する。	地域に開かれた信頼される学校の構築を図る。	働き方改革の推進 校務支援システム等、ICT機器を活用し、 ・スケジュール管理の徹底を図る。 ・各部、各委員会の組織的な取組を進める。 ・PDCAサイクルを充実させる。 積極的な地域教材や人材の活用 ・学校行事や教科等で地域人材や地域教材を活用した活動や学習を進める。 ・活動や学習のまとめの発表、お礼(の会)等も学習過程の中に位置付け、交流を深める。 積極的な情報発信 ・学校だより、HP、学級だより等で積極的に学校や学級の様子を発信する。	・定時退校日の完全実施。 ・勤務時間外の上限時間を超えない月を6月以上。 ・保護者や地域、関係者の学校理解の肯定的評価割合。 地域アンケート 保護者アンケート (7・1月)	100% 90%以上	94%	94%	94%	B	・定時退校日については、毎週水曜日17時30分までに退校できた割合は、87%で、前期と比較して大幅な増減はなかった。勤務時間上限を超えた月は、4月、6月、12月、1月であった。現段階で上限を超えない月は、6月であり、目標値を達成することができた。 ・保護者アンケートの項目「子どもは、地域学習を楽しんでいる」の設問に対して、肯定的評価の割合は、73%であり、前期より3ポイント下がった。新型コロナウイルスの感染防止対策のため、地域へ向かっている学習や、ゲストティーチャーを招いての活動が例年よりも少なかったことが影響していると思われる。 年間行事に組み込まれている「そは打ち」や「どんど祭り」については、地域の方々からの協力を得て全校で実施することができた。児童は、地域の方々にお礼の手紙を書き、交流を深めることができた。 ・保護者アンケート「学校だより等で子どもの様子がよくわかる」の設問に対して、肯定的評価の割合は、79%であり、前期より9ポイント下がった。情報提供の量や回数については、前期より増やした。発信が、紙媒体から電子メールに全体的に移行しつつあるが保護者の意見を聞きながら進めていく必要があると思われる。	・勤務時間を意識した働き方はできているが校務分掌、複式学級の担任において、業務量の個人差が大きい。複式学級の担任が担当する業務量を調整すること、学校行事の見直し等をさらに進めていく。 ・コロナ禍でも地域学習を進めていくことができるように、ICT機器を効果的に使っていく。 生活科、総合的な学習の時間を中心に地域学習の年間計画を整理し、学校体制として取り組んでいく。 学習した内容を保護者や地域の方に向けて様々な方法で発信していく。 ・クロームブックやメール配信システム「すくーる」を使っている情報提供を進めているが、保護者の中には、紙媒体を希望する方もおられる。どのような発信の仕方でも効果的かを保護者の意見も聞きながら進めていく。学級通信については、定期的な配信する日を学校で設定するなどし、クラス間で差が出ないようにしていく。	○			・複式学級の担任は、業務量が多くなると思います。行事等の見直しとタブレットの活用を進めてください。 ・時間外勤務が多いということで、最近先生の希望者が減って、教員不足が言われています。定時退校しても自宅に持ち帰り、事務作業しても解決にならない。 ・勤務時間に関しては、単純に行事の見直しだけでなく、ICT機器を効果的に使っていく。既存業務のプロセスを効率化して、合理化(プロセスの改善)や効率化(時間短縮)ができないか検討が必要かと思えます。 ・紙媒体を希望される保護者もおられるが、ITを駆使して事務作業の簡略化も行って、事務作業時間の減少に努めていただきたいです。 ・情報発信手段は、クロームやメール紙など様々な出力形態に対応しても工数はそれほど増えないと思われるので様々な要望に対応すべきだと思います。大事なものは発信する情報(文庫、数学)をただパソコンに入力するのではなく、多角的に分析可能なグラフやラインを決めてデータ入力して、縦横ストーリーに役立つデータとなるよう様に蓄積することだと思います。 ・複式学級の設置等、業務の平準化が難しい中であっても、働き方改革が取り組まれ、進展していることがよくわかります。すばらしいです。

【j:自己評価 評価】
A: 100% (目標達成) B: 80% (ほぼ達成) < 100
C: 60% (もう少し) < 80 D: (できていない) < 60

【l:学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。 ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。